



おしえて「文化財」

問 埋蔵文化財センター
☎27-0333 ☎27-0334

東松山市指定考古資料

「阿弥陀一尊板石塔婆」「阿弥陀三尊板石塔婆」「仁治二年の板石塔婆」

板石塔婆=板碑とは、鎌倉時代から戦国時代を中心に流行した供養塔の一種です。市内では、1039基確認されています(令和7年現在)。

「阿弥陀一尊板石塔婆」刻まれた年号は上半分が磨滅して「七月日」だけしか読み取れませんが、かすかに「寛」の字が読み取れることと、そのほかの文字から寛喜元年(1229年)と推測されます。寛喜元年だとすると、国内最古の板碑とされる嘉禄3年(1227年)銘の板碑(熊谷市)のわずか2年後に造立されたこととなります。

「阿弥陀三尊板石塔婆」阿弥陀如来像は上半身が欠損していますが、造立初期の板碑の特徴である白型の蓮台の上に立っていて、古い板碑だとわかります。

「仁治二年の板石塔婆」仁治二年(1241年)と刻まれており、市内で二番目に古い板碑の一つです。

これらは、令和元年東日本台風の被害を受けてしまいましたが、元々、所有者が台座に固定して覆い屋をかけるなど大切に保存していたこともあり、実害はありませんでした。



左から「阿弥陀三尊板石塔婆」「阿弥陀一尊板石塔婆」「仁治二年の板石塔婆」 正代個人宅に安置



「阿弥陀三尊板石塔婆」
残存高100cm
最大幅42cm



「阿弥陀一尊板石塔婆」
残存高105cm
最大幅46cm



「仁治二年の板石塔婆」
残存高92cm
残存幅39cm

いきいきチャレンジ! シニアクラブ

このコーナーでは、地域の人とつながるシニアクラブの活動内容、参加した人の効果などを紹介します!

無理なく楽しめる、仲間とのふれあいを大切に! 北部不老クラブ



大岡地区で活動する北部不老クラブです。27人の会員が所属しています。日常に役立つことや健康を維持するための内容を考え、活動しています。

誰もが無理なく仲間と楽しく交流を深めることのできる場として、地域に根づくクラブを目指していきたいです。

北部不老クラブ 主な活動

- グラウンド・ゴルフ
- ボッチャ
- 親睦会
- 親睦旅行(日帰り)
- 出前講座 等

◀ 会長 三友 淑子さん



先日開催した「救急救命講習会」の様子です。会長の三友さんが実体験として、実際に目の前で人が倒れ、心臓マッサージを施したことで蘇生につながったことがあり、今回の講習会を開催しました。

総勢16人が参加し、講習を受けた会員さんからは「実際に器具を使っての講習でとても参考になった」「また講習を受けたい」という声がありました。

問 高齢介護課
☎21-1406
☎22-7731



【シニアクラブとは】おおむね60歳以上の人を対象とし、身近な地域で自主的に活動している組織で、仲間づくりや健康づくり、地域づくりを行っています。シニアクラブの見学等のご相談は、お近くのシニアクラブや高齢介護課までお気軽にご連絡ください。



WITH FLOWERS ~暮らしに花を~

平野地区の「ヒガンバナ」を観に行こう!

平野地区を流れる一級河川滑川の土手沿いに、ヒガンバナ(別名:曼珠沙華)が植樹されているのをご存じでしょうか?環境美化と景観維持、防犯対策のために平成24年に平野地区ハートピアまちづくり協議会が主体となり植栽をしたものです。株分けをして少しずつ拡張され、今では土手沿い一面にヒガンバナが咲き誇ります。この活動は「花・歩・梨(か・ほ・り)プロジェクト」と名付けられ、現在も平野地区ハートピアまちづくり協議会や地域の皆さんが大切に維持・管理を行っています。

今回は、このプロジェクトに取り組む平野地区ハートピアまちづくり協議会亀井会長にお話を伺いました。活動について「年に3回、平野地区の自治会員に声をかけて除草とごみ拾いを行い、維持管理をしている。ヒガンバナは分球によって少しずつ増やしてきた。これからも皆さんに観て楽しんでいただけるよう景観維持などをしていきたい」とのことでした。

ヒガンバナは例年9月中旬に見頃を迎えます。春には桜も咲き誇り、四季折々の自然が楽しめる場所です。現地にはベンチも設置され、休憩しながらお楽しみいただけます。

一面に広がるヒガンバナを、ぜひご覧ください!

問 地域支援課 花いっぱい推進室
☎21-1435 ☎22-7799



コアロ通信

トウキョウサンショウウオ放流会

桜山小学校



エサやりの様子



放流会

7月10日(木)、4年生が総合的な学習の時間に県子ども動物自然公園内クロスカントリーコースでトウキョウサンショウウオ放流会を行いました。県子ども動物自然公園から令和7年3月に絶滅危惧種であるトウキョウサンショウウオの卵を預かり、それ以降4年生86人でグループに分かれて毎日水の取り換えやエサやりなどのお世話をしました。今回の放流会では265頭を放流し、児童からは「安全に大きく育ててほしい」「これからも小さな生き物を大切に育てていきたい」という感想がありました。このトウキョウサンショウウオの保全活動が認められ、桜山小学校は日本鳥類保護連盟会長褒状を受賞しました。

